

やましん歌壇拙掲載歌の紹介

2024-9-20

黒沼 貞志

短歌を嗜むようになったのが2010年、その4年後に拙いとは思いつつ歌壇への投稿を始め、ビギナーズラックで初めての掲載となり、その後も掲載されるようになりました。月に一度の投稿（9首：3人の選者に各3首）は一度も休むことなく続けて十年目に入りました。結果は掲載なしの時、一首、二首、三首掲載される時など様々です。

今では投稿は短歌継続への源泉と言えますがその掲載の日（投稿の翌月）の新聞は「捲りたくもあり捲りたくもなし」です。

この間に掲載された詠草は令和6年9月現在で179首（掲載の割合：月平均約1.4首）となっております。それらの中には単独の短歌（77首）もありますが、写真短歌作品の詠草を短歌として投稿して掲載されたのは80首、他者の写真に短歌を添えた共同制作の写真短歌の詠草は22首（合計102首）となっております、写真短歌作品の短歌は約57%を占めております。

掲載されたこれらの詠草は都度弊HPにアップしております。また、次のような拙発行冊子にも掲載しております。

- ・2017年11月に発行した冊子「私的アンソロジー”しあわせの構図”」
- ・2016年3月に発行したブックケース入り4分冊の冊子「続・続 私的アンソロジー”しあわせの構図”」の「Ⅱ 歌集」や「Ⅲ 写真短歌集」

短歌を始めたころに縁を戴いたある結社（短歌の世界では団体をそう言うことを知りました）に所属しております（この結社も高齢化により今年度限りという現実に直面しております）。

何事も活動の継続には苦勞が付きものですが、多くの結社は高齢化の波が押し寄せております。少しでも多くの方（特に若い方）に短歌（および写真短歌）という世界に関心を持っていただきたいと考えております。

そして、拙詠草は弊HPやメルマガなどで紹介していますが、短歌の世界をもっと一般の方に知ってもらう方法はないかと思い、トライアルとしてこのFacebook上でも昨年9月30日に筆頭一席となった短歌を、また、4月17日に筆頭三席となった短歌を紹介しました（何れも写真短歌としている作品の短歌を単独でやましん歌壇に投稿した詠草です）。この経験から、これまでやましん歌壇に掲載された自身の短歌を振り返えることは自身の詠力の向上につながるのではと思い立ち、Facebookで紹介することにいたします。

拙いとはいえ歌壇に掲載された弊短歌を垣間見ることで、「自分も始めてみようか」と思い立つひとがひとりでも生まれることを願いつつ・・・。